

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400175
法人名	社会福祉法人 久英会
事業所名	若久園グループホーム
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1389-117 (電 話) 0943-32-9060

評価機関名	福岡県社会福祉協議会				
所在地	福岡県春日市原町 3－1－7				
訪問調査日	20年	12月	4日	評価確定日	21年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成20年 11月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	16 人	常勤 14人,	非常勤 2人,	常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建て、一部鉄筋コンクリート2階建て 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 11月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高良台リハビリテーション病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所からはゴルフの練習場やのどかな風景が見渡せ、歴史ある母体施設の敷地の奥まった一角に立地している。外観も落ち着いた色合いの2階建てで、事業所内は明るく、広く開放感のある共有空間は、利用者が居心地良く過ごしやすい雰囲気が漂っている。外出、サークル活動、行事等の楽しみごとが多く、利用者は生き活きと生活している。またFIM(機能的自立度評価表)を用いて理学療法士等による個別リハビリを実施し、利用者の心身機能の低下予防を図っている。心身機能の維持・向上とともに生活面での充実という両面から利用者を支え、それが理念である「その人らしくあるがままに」の実践に繋がっている。地域交流にも力を注ぎ、経営者や管理者、職員の質の高いケアを目指す意欲ある姿勢がみられる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題については、全職員で話し合いを行って改善計画を立てて、具体的な改善に取り組んでいる。利用者全員分の水分摂取量の把握については水分チェック表を作って活用し、運営推進会議を運営に活かす取り組みとしては新たな委員の参加を図り改善した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
①	管理者及び職員ともに評価の意義を理解し、自己評価にしっかりと取り組むことにより、事業所の運営や日頃の業務などを振り返っている。今回の自己評価については、職員で普段話していることを管理者等数人で集約し、それに全職員が目を通してしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に開催し、事業所からは、利用者の状況や活動の報告を行っている。委員からは意見や要望を聴取するよう努め、情報収集や事業所の新たな取り組みのきっかけになっている。地域の土地を地域の方々と共同活用する話も出ており、運営推進会議で出た意見をサービス向上に活かす取り組みが見られる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 個別の事業所便り、金銭管理状況を毎月家族へ郵送し、家族等の来訪時には、利用者の生活の様子、健康状態を伝えている。また情報交換ノートや家族へのアンケートなど、家族等からの意見を汲み取る努力をしている。利用者と家族の関係を大切に考えており、家族等への細やかな配慮が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し道路愛護やゴミ出し当番などの地域活動を行ったり、地域で行われる敬老会、納涼祭、もちつき大会などの祭りや行事にも積極的に参加している。また学生ボランティアの受け入れ、近隣の保育園や小学校との交流も行い、地域交流を図っている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念と連動し、地域密着型の視点が含まれた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや月1回の全体会議などで、利用者一人ひとりに合ったケアについて話し合いを行い、日々のケアの中で理念の実践に努めている。職員の採用時にも理念について説明し、職員の意識化を図っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に民家が少ないが、自治会に加入し道路愛護やゴミ出し当番などの地域活動を行ったり、地域で行われる敬老会、納涼祭、もちつき大会などの祭りや行事にも積極的に参加している。また学生ボランティアの受け入れ、近隣の保育園や小学校との交流も行い、地域交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解している。職員で自己評価について意見を述べ合ったことを管理者等数人で集約し、それに全職員が目を通している。前回評価で課題となった利用者全員分の水分摂取量の把握についても、職員会議の中で話し合いを行い、改善計画シートを作成し、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所からは、利用者の状況や活動の報告を行っている。地域の土地を地域の方々と共同活用する話も出ており、運営推進会議で出た意見をサービス向上に活かす取り組みが見られる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の現状報告や相談を行い助言を受ける等、連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が制度についての研修を受講し、事業所内で勉強会を行って全職員の理解・周知を図っている。必要な場合には家族に説明を行っている。パンフレットや研修資料がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真や家族への連絡・行事等を載せた個別の事業所便りを、毎月家族へ郵送している。また年2～3回写真を送付している。家族等の来訪時にも、利用者の生活の様子、健康状態について話をし、緊急時には電話連絡している。金銭管理については、金銭出納帳のコピーと領収書原本を毎月送付し、家族等来訪時に押印を貰っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等来訪時などに利用者の生活状況等を伝えたり、利用者一人ひとりの家族等との情報交換ノートを作成したりして意見や不満などを話してもらえる環境、雰囲気作りを行っている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を維持するために、職員の異動をほとんど行わないよう配慮している。やむを得なく職員が交代する場合は、十分な引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを最小限にしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組みを期待したい内容
外部	自己			(取り組みを期待 したい項目)	(すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に公平性をもって、性別や年齢等で差別することなく職員の採用にあたっている。職員についても、本人の希望を取り入れた配置を行い、能力や特技を最大限に活かして働けるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修等で人権に関する研修を行っている。また管理者等は利用者に対する人権の尊重を重んじ、朝礼や全体会議で介護上の問題点などについてアドバイスも行っているが、人権に関するテキストやパンフレットの整備は不十分である。	○	全職員の内部・外部研修への参加の機会を設けて計画的に人権教育を実施してほしい。また研修記録を残し、パンフレットや資料等は職員がいつでも確認できるように整備してほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成のために日常的に学ぶことを推進している。月2回の法人内での勉強会や外部の勉強会に全職員が自主的に参加できる機会を作っている。研修内容については、研修報告書を作成し、全職員が共有できるように会議等で伝達している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回地区介護保険事業連絡協議会グループホーム部会の会議に参加し、事例検討、情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。近くのグループホームとも施設見学や食事会をし、管理者及び職員間での交流も行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学や自宅訪問を行い、馴染みの関係を築くように家族と相談しながら支援している。やむを得ず緊急利用となった場合には、家族やそれまで利用していたサービス事業所等から情報提供して貰い、本人が安心して場の雰囲気に少しでも早く馴染めるように配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や片付け・洗濯等の家事、創作活動等を利用者と職員で一緒に行いながら、喜怒哀楽を共にして生活している。利用者からは感謝や労いの言葉かけがあり、職員と利用者が共に支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりの中で利用者の思いや希望等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、家族等から得たこれまでの生活歴などの情報を参考にして職員間で検討しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員の日々の関わりの中での気づきや利用者の個別の記録から、全体会議の中で意見を出し合い検討し、利用者本位の介護計画を作成している。家族へ説明を行い、同意の押印を貰っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の介護計画の見直し、月1回のモニタリングを行っている。家族や本人から新たな要望や利用者の状態変化が生じた場合は、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の支援を行い、利用者が入院した際には早期退院に向けて家族や医療関係者と連携している。また、自宅での生活が困難な高齢者のショートステイを提供したり、災害や緊急時に独居高齢者等を事業所で支援できることを民生委員に伝えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医や事業所の協力医の受診を支援している。定期的受診には家族に同行して頂き、状況に応じて職員が同行している。家族と受診状況について情報交換を行い、受診結果は共有している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り介護に関する指針」を作成している。重度化や終末期のあり方について利用時に本人・家族等と話し合い、説明し、同意書に家族等の署名・押印を貰っている。本人や家族等の意向を踏まえ、医師などの医療関係者、職員が連携を取り、全員で話し合い方針を共有し取り組んでいる。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がプライバシーの確保、個人情報保護法を理解し、秘密保持も徹底が図られている。日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライドを損なわないよう、言葉かけや対応に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に配慮しながら、その日その日の本人の気持ちを大切にできるだけ柔軟に支援している。利用者は食事の片付けや洗濯物干しの手伝い、ソファでのおしゃべり、パソコン、散歩などをして思い思いに過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は季節の食材や庭の畑で収穫した野菜等を一緒に準備、盛り付け、片付けを行っている。一緒に食事をする職員と、見守りを行う職員とで、その日の献立を話題にして楽しく食事ができる雰囲気作りを心がけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数、時間は利用者の希望等にあわせて柔軟に対応して、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。仲の良い利用者同士で入浴される場合もある。入浴を拒否する利用者に対しては、言葉かけの工夫や職員の連携によって入浴して頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、食事の準備、畑仕事、漬物作りなど利用者の得意分野での力が発揮されるように支援している。講師を招き華道と器楽サークル活動を行ったり、職人に来てもらい和菓子、クレープなどの実演を行うなどし楽しみごとの支援をしている。また久留米餅の小物作りやちぎり絵などの創作活動も行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に応じて、ほぼ毎日の散歩、1ヶ月に2回程季節の花見や工場見学でドライブなどを行っている。また個別に買物などの外出も行っている。外出先は、利用者から希望を聞いたり、家族や運営推進会議の委員から情報収集したりして決定している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員同士の見守りや連携で、日中は鍵をかけない自由な暮らしを支援している。玄関にチャイムやセンサーが設置されている。外出傾向が強い時には、安全面に配慮しながら一緒について行き、利用者の気分転換を図っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回消防・避難訓練をして、消火器の使い方、避難経路の確認を行っている。地域の方に参加の呼びかけをしたり、裏のゴルフ練習場には緊急時の協力をお願いしたりしている。また非常用食料・飲料水・毛布・簡易トイレなどの準備がある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者分の栄養摂取量、水分摂取量をきちんと表に記録し、利用者の健康管理に取り組んでいる。また利用者一人ひとりの嗜好を把握し献立に取り入れている。月１回管理栄養士にチェックしてもらいアドバイスを受けて、栄養バランスにも配慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
（１）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい家具等の配置や馴染みの物を取り入れている。居間の仏壇には、毎朝利用者がご飯や花を供え、フロー内には季節の花等を飾り、壁には外出した時の写真、ちぎり絵を貼っている。またマッサージ機や和室にコタツを設置し、居心地良く過ごせる工夫がされている。テレビの音や光にも配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、化粧ポーチ、家族写真、本、カーペット、テレビ、仏壇、置物など利用者の馴染みの物を持ち込んでいる。家族になるべく馴染み物を持ってきてもらい、精神的な安定が図られるように工夫・支援している。		

※ は、重点項目。